キャンパスの四季　Four Seasons in SHC　(No.42)　2015/06/30

＜競演＞夏至の節季は梅雨半ば、晴れても富士山が見えるほど空の澄んだ日はほとんどなく空気も重い感がします。そんな中、甘い香りを漂わせてくるのが合歓（ネム）の花です。傾国の美女「西施」になぞらえられる花は遠くからの眺めにも映えます(No.9 参照)。一方ビオトープでは“ヤマユリ”は茎や葉が可哀そうなほど大きな花を付け濃厚な香りを漂わせています。径が 20 ㎝を越えるような豪華さです。シャクヤク、ボタンと共に美人を形容する花となっているのも頷け、花の色かたちと香りをネムと競っています。「百合の山路越え来て合歓の花の里（河東碧梧桐)」この百合はヤマユリでしょう、贅沢な気分です。

＜ネム＞

＜ヤマユリ＞

＜珍しや＞秋だけでなくこの時期はキノコ達にとって好みのようですね。校舎脇に植えられたクマシデの根元の草地に大ぶりなキノコが半径3～4mほどの輪になるようにニョキニョキと姿を現しました。写真（右）には輪の一部しか納まっていないのですが“フェアリー・リング(Fairy Ring)　妖精の輪”です。SHC で初めて目にしました。もう一つの「珍しや」は SHC ではここ数年目にしなかった“オカトラノオ”（右写真）の花が雑木林の縁辺で花を咲かせていることです。

（**フェアリー・リング**）キノコが地上に輪状になって姿を現す現象あるいは輪そのもののこと。草が輪状に枯死したり逆に良く育つことがあるようです。写真では前者ですね。（**オカトラノオ**）穂状の花の形を虎の尾に見立てています。

＜巣立ち＞今年はツバメの巣作りがとんと見られません。おそらくカラスのせいで安心して子育てができなくなったのでしょう。一方、スズメは頑丈な鉄枠の隙間に旨く巣を作っています。写真(左)はヒナが巣から顔を出し騒がしく親を待っているところです。数時間のちには４羽のヒナが巣立ちました。

＜変身＞トンボやチョウの羽化ほど劇的な変身はなかなかありません。ビオトープの池ではオオシオカラトンボ(右写真：羽化後の♀)やギンヤンマのヤゴが朝ごとにコウホネやガマの茎を這い上がって羽化しているようです。大人になったトンボたちは縄張り争いと交尾、産卵で忙しそうです。水中ではメダカに混じってオタマジャクシが育っています。幾日もかかりますが脚が生え尻尾が無くなる変身は子≒親を想像できないほどのものです。(文と写真:松本正勝)

＜脚が出た！＞